

慢性痛
急性痛

香曾我部義則先生の今月のカルテ

vol.118

ペインクリニックの現場から

榎木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。今回は「腱（けん）・靭帯（じんたい）付着部症」についてです。



■プロフィール こうそがべ・よしのり
昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会指導医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

筋肉と骨を接続する腱、骨と骨を接続する靭帯が骨に付着する部位を「腱・靭帯付着部」と言います。腱・靭帯付着部と言います。部位が何度も引っ張られると微小な外傷が生じ、繰り返すことで炎症によって生じることがあります。微小な外傷が繰り返され生じる障害で、テニス肘（ひじ）、ゴルフ肘、ジャンパー膝（ひざ）、ダンスの踵（かかと）などとも呼ばれますが、必ずしもスポーツに伴うものではありません。

見られる病変を「腱・靭帯付着部症」と言います。腱・靭帯が骨に付着する部位が何度も引っ張られると微小な外傷が生じ、繰り返すことで炎症によって生じることがあります。微小な外傷が繰り返され生じる障害で、テニス肘（ひじ）、ゴルフ肘、ジャンパー膝（ひざ）、ダンスの踵（かかと）などとも呼ばれますが、必ずしもスポーツに伴うものではありません。

「足底筋膜炎」も最近高齢者に増えています

腱・靭帯が骨に付着する部分に生じる「腱・靭帯付着部症」

改善しても炎症を繰り返す。腱・靭帯が骨に付着する部位が何度も引っ張られると微小な外傷が生じ、繰り返すことで炎症によって生じることがあります。微小な外傷が繰り返され生じる障害で、テニス肘（ひじ）、ゴルフ肘、ジャンパー膝（ひざ）、ダンスの踵（かかと）などとも呼ばれますが、必ずしもスポーツに伴うものではありません。

◆テニス肘：一般的に上腕骨外側上顆（か）炎を指します。肘外側の有痛性障害で、把握運動を繰り返すと伸筋の起始部で線維が引っ張られ微細外傷や炎症が生じます。一度

◆ジャンパー膝：ジャンパー膝は、膝蓋（し）節部の痛みで、膝蓋（し）節部の痛みが著明です。◆ダンスの踵：つま先立ちによる踵（けい）骨後部の骨膜炎から痛みが生じることが少なく、歩行中に足底筋膜炎が引き伸ばされる事で症状が出ます。◆足底筋膜炎：最近、高齢者に多く見られる足底筋膜炎は、踵（かかと）の痛みが特徴です。

家事などで生じます。◆ゴルフ肘：上腕骨内側上顆炎と言います。肘の内側に痛みが走ります。ゴルフではダフル（地面の手前をたたき）動作、手のひらを上に向け肘を伸ばす動き、肘を曲げ重い物を持つような動作時に痛みが出ます。◆ジャンパー膝：ジャンパー膝は、膝蓋（し）節部の痛みで、膝蓋（し）節部の痛みが著明です。◆ダンスの踵：つま先立ちによる踵（けい）骨後部の骨膜炎から痛みが生じることが少なく、歩行中に足底筋膜炎が引き伸ばされる事で症状が出ます。◆足底筋膜炎：最近、高齢者に多く見られる足底筋膜炎は、踵（かかと）の痛みが特徴です。

お答えは、榎木病院北
区西花尻）の香曾我部先
生です。☎086（29
3333554